

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名	教育委員会
----	-------

基本計画	柱	いきいきと働く	担当局 / 総務担当課名	教育委員会	企画課
	大項目	にぎわいづくりの推進			
	取組みの方針	北九州ブランドの創造			
	連絡先	582-2357			

21年度計画

-4-(1)-

施策名	偉人・先人の顕彰
-----	----------

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	北九州市の文芸の振興に功績のあった松本清張や林芙美子、杉田久女など、本市ゆかりの偉人・先人について研究を進め、地域の魅力を掘り起こし、発信する事業へとつなげます。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	北九州ブランドの創造

施策の成果	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		現状値		平成21年度	目標値	
	年度	平成21年度	計画	実績		年度	平成25年度
企画展の開催回数	年度	平成21年度	計画	実績	5 回	年度	平成25年度
	現状値	7回	計画	実績	7 回	目標値	6回
			達成度		140.0 %		
	年度		計画			年度	
	現状値		実績			目標値	
			達成度		%		
本市ゆかりの文学者や全国的に著名な作家などの文学に関連する企画展を充実させます。松本清張記念館で年2回、文学館で年4回の企画展の開催を目指します。	年度		計画			年度	
	現状値		実績			目標値	
			達成度		%		
	年度		計画			年度	
	現状値		実績			目標値	
			達成度		%		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]		事業費		60,716 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)	
			うち一般財源		54,904 千円	40,350 千円	

局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	B	「松本清張生誕100年記念事業」を予定どおり行い、北九州市及び松本清張記念館を全国にPRすることができ、北九州市のビクターズインダストリーの振興を図ることができました。文学館においても計画以上の企画展を開催することができ、本市ゆかりのある文学者と文芸活動についての顕彰と研究促進が図れ、一定の成果があったと考えます。今後も、来館者アンケートなどを参考にしながらより充実した魅力ある企画展の開催を目指します。
今後の局施策の方向性	本市の文学の拠点として、調査・研究を継続的に取り組むとともに、魅力的な企画展や多彩な関連イベントの開催などを通じて、市民に幅広く、本市ゆかりのある文学者や文芸活動に対する関心を高めていきます。	

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

評価担当部署の意見

適切な評価 下記のとおり

施策名 偉人・先人の顕彰

構成事業名	事業費		事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]				21年度			21年度
松本清張生誕100年記念事業			16,124 千円	30,000 千円	特別経費			工
事業費のうち一般財源			16,124 千円					
松本清張記念館研究センター・普及事業			17,264 千円	5,175 千円	裁量的経費			ウ
事業費のうち一般財源			13,209 千円					
文学館普及研究事業			27,328 千円	5,175 千円	裁量的経費			ア
事業費のうち一般財源			25,571 千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					

局施策全体のコスト	21年度	
	事業費	人件費(目安)
	60,716 千円	40,350 千円
施策全体の事業費のうち一般財源	54,904 千円	

局施策の
21年度評価

B

【局施策評価】
A: 大変良い状況にある
B: 概ね良い状況にある
C: 概ね良い状況とまでは言えない
D: 不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

担当局/課	教育委員会	文化財課
連絡先	582-2389	

基本計画	柱	いきいきと働く
	大項目	にぎわいづくりの推進
	取組みの方針	北九州ブランドの創造
	主要施策	偉人・先人の顕彰

関連計画	
事業期間	
経費区分	特別経費

-4-(1)-

事業名	松本清張生誕100年記念事業
-----	----------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	北九州市出身の作家・松本清張の生誕100年にあたる平成21年に記念事業を実施し、その偉業を顕彰するとともに、北九州市及び松本清張記念館を全国にPRしていきます。また、市民文芸力の醸成、文化創造都市としてのビジターインダストリーの推進を図ります。			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	偉人・先人の顕彰	成果	企画展の開催回数

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由
		当初計画	松本清張生誕100年記念事業の実施(平成21年度事業)				
現状	松本清張生誕100年記念事業の実施(平成21年度事業)						
実施状況	成果・活動指標 (上段: 指標名、下段: 指標設定の考え方)					平成21年度	目標
	松本清張生誕100年記念事業の実施					計画	年度
	松本清張生誕100年の節目の年に様々な記念事業を実施することにより、改めてその偉業を顕彰し、清張の生誕としての認知度向上、文化創造都市としてのイメージアップ及びにぎわいの創出を図ります。					実績	内容
						達成度	年度
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度: 執行額]					事業費	16,124 千円
						うち一般財源	16,124 千円
単年度計画							事業にかかった人件費の目安(21年度) 30,000 千円

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成21年度は、記念講演会、全国巡回展、原作舞台劇などの記念事業を実施しました。また、日本ウォーキング協会と共催し、全国の清張作品ゆかりの地を歩くウォーキング大会の開催や生誕100年記念オリジナル切手シートの発行などを行いました。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	北九州市及び松本清張記念館のPRを目的とする事業を実施しました。全国に根強い支持を持つ清張の生誕地としての認知度向上、文化創造都市としての北九州市のイメージアップに貢献できたと考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	事業のための経費を最小限にとどめました。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	松本清張生誕100年にあたる節目の年に記念事業を実施することにより、松本清張の生誕地としての北九州市の認知度、文化創造都市としてのイメージアップ及びビジターズインダストリーの振興を図ることができたと考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか。市の関与をなくすことはできないのか。	4	全国に根強い支持をもつ松本清張を研究し、全国で唯一、清張の全てを魅せる施設を有する本市の関与は必要であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	工	事業は予定どおり実施し、清算を含め、全て21年度で終了しました。

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	教育委員会	松本清張記念館
連絡先	582-2761	

基本計画	柱	いきいきと働く
	大項目	にぎわいづくりの推進
	取組みの方針	北九州ブランドの創造
	主要施策	偉人・先人の顕彰

関連計画	
事業期間	平成10年度～
経費区分	裁量的経費

-4-(1)-

事業名	松本清張記念館研究センター・普及事業
------------	---------------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	記念館は、松本清張の多岐にわたる創作活動を企画展等で体系的に紹介し、清張とその時代の研究を行うとともに、市内外に情報発信し、来館者の増加と本市のイメージアップを図ります。				
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	偉人・先人の顕彰		成果	企画展の開催回数

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		現状	松本清張の多岐にわたる創作活動の紹介等 企画展の実施 年2回								
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)							平成21年度	目標	
		企画展の実施						計画	2回	年度	平成22年度
		市民に質の高い作品などに接する機会を安定的に提供し、魅力ある企画展を開催します。						実績	2回	内容	2回
						達成度	100.0%				
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度・執行額]						事業費	17,264千円	事業にかかった 人件費の目安(21年度) 5,175千円		
							うち一般財源	13,209千円			
単年度計画											

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	20年度から期間延長していた特別企画展及び21年度後期特別企画展はともに好評で、記念館来館者数は全体で前年度に比べ35%増となっており、来館者増加に貢献しています。また、市外からの来館者も約80%と、市のイメージアップにも大きく貢献していると考えています。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	記念館来館者数の当初計画を上回る1.2倍の来館者を数えており、効果があったと考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	3 委託業務については、コンペや予定価格の見直し等、経済的であり質の高い事業を行えるよう努めています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	4 全国規模の幅広い清張ファンの期待にそうができなくなり、入館者の増加は見込めなくなります。また、研究センター事業で発行される研究誌は、全国にその愛好家があり、発行が出来なくなれば市のイメージダウンにつながると考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。	4	現在のところ、他の実施主体は考えられず、実施主体は市が適切と考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	本事業は、施策に対する有効性も高く、「偉人・先人の顕彰」を図っていく上で重要な事業であると考えています。今後も、目標の達成に向け、着実な取組みを進めていくことが適当だと考えます。

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	教育委員会	文学館
連絡先	571-1505	

基本計画	柱	いきいきと働く
	大項目	にぎわいづくりの推進
	取組みの方針	北九州ブランドの創造
	主要施策	偉人・先人の顕彰

関連計画	
事業期間	平成18年度～
経費区分	裁量的経費

-4-(1)-

事業名	文学館普及研究事業
------------	------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	文学の楽しさや本市にゆかりのある文学者を紹介していくために、定期的に魅力ある企画展を開催し、大人から子どもまで文学に親しむ機会を提供します。				
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	偉人・先人の顕彰		成果	企画展の開催回数

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		現状	魅力ある企画展の開催 特別企画展2回/年 企画展1回/年	魅力ある企画展の開催 特別企画展2回/年 企画展1回/年 夏休み企画展1回/年	特別企画展2回/年 企画展1回/年 夏休み企画展1回/年						
	実施状況	成果・活動指標 (上段: 指標名、下段: 指標設定の考え方)						平成21年度	目標		
		企画展などの開催回数						計画	3回	年度	平成25年
		文学の振興、教育、普及とともに本市にゆかりのある文学者と芸芸活動をより多くの市民に紹介する手段として、企画展などの開催回数を活動の指標としました						実績	5回	内容	4回
								達成度	166.7%		
	コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度: 執行額]						事業費	27,328千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)	
								うち一般財源	25,571千円	5,175千円	
	単年度計画										

【事業の実施結果・進捗状況の確認】									
実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	当初予定していた計画より多くの企画展を開催することが出来ました。それによって文学の教育普及とともに本市にゆかりのある文学者と芸芸活動についての顕彰と研究促進が図れ、一定の成果があったものと考えます。今後も、来館者アンケートを参考としながら、より魅力のある充実した企画展の開催を目指します。							

【事業の再検証】									
評価	有効性	この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4: 高い 3: やや高い 2: やや低い 1: 低い	4	来館者アンケートの展覧会の評価は概ね好評でした。また展覧会開催のための調査及び実施に際し、貴重な資料の寄贈を受けることもありました。それらの点からこの事業について効果があったものと判断できます。今後は来館者アンケートを参考としながら、より魅力のある充実した企画展の開催を目指します。				
	経済性・効率性	同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		3	展覧会用資料の借用のための運送について、前の展覧会の資料返却と時期を合わせるなど、展示会全体の開催経費を見直し削減に努めたため、低く抑えることが出来ました。				
	適時性	今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	開館以来、徐々に文学館の成果が浸透してきている状況です。文学関係者などからも信頼を受け、寄贈・寄託の件数も増えています。現状は研究のための足場が出来てきたところです。事業を実施しなかった場合、関係者との信頼関係が崩れ、資料の収集に重大な支障を及ぼすことが想定されます。また、その研究成果等を展示などにより市民が接する機会が失われることにもなります。				
	市の関与の必要性	実施主体として市が適切なものか。市の関与をなくすることはできないのか。		4	市が直営であることで文学関係者などからも信頼を受け、寄贈・寄託の件数も増えています。また、現在、市が収集している資料が散逸すると、再度収集することは困難となり、研究などを継続することは極めて難しくなると思われます。したがって、市の関与は必要であると考えます。				
今後の方向	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了	ア	今まで開催した企画展の成果を分析し、来館者アンケートを参考としながら、より魅力のある充実した企画展の開催を目指します。					